

# 西多摩医師会報

1987年1月1日

169号

発行所・社団法人 西多摩医師会

東京都青梅市西分3-103

編集委員・石井 好明 井村 進一

TEL.(0428)23-2171(代)

栗原 琢磨 小林 杏一

道又 正達 村山 正昭

渡辺 良友



おしの野の朝  
忍野の朝

# 年頭所感

## 年頭挨拶

西多摩医師会長 西村 邦康

新年あけましておめでとうございます。

会員諸先生方におかれましては、お健やかに御家族の皆様とご一緒に新しい年をおむかえたことを心からお喜び申し上げます。

昨年4月会長に就任以来9カ月医師会事業が着実に遂行されてきましたことは会員諸先生方、及び副会長理事諸君の協力の賜と心から御礼申し上げます。

会長就任にあたり、会運営の方針として70年の西多摩医師会の伝統、和の精神(会員間の融和)を基本に医の倫理にもとづいた医業基盤の確立、急速に変動している社会への対応即ち、変革した医療を求める住民の期待にこたえる医師会事業をおこなうと申しのべました。そして西多摩広域行政圏協議会の施策と西多摩医療計画1984の整合及び具体化を計り、病院、診療所の公私の役割分担、それに伴う、病病、病診連携、とくに生涯教育の充実、ヘルス事業への積極的関与を計って来ました。その実現のために種々のアプローチ即ち伝染病院統合問題、公的病院長および各科部長との懇親会、又東京都地区会長会議で青梅看護専門学校の地域内活用の提案等、を行ないその方向づけを模索してきました。幸いそ

の任に当たられた理事及びその委員の先生方の真剣な御討議によって新年度施策への足掛りを掴むことが出来ました。

ところで、昨年我が国は、国際化社会への移行、産業構造の転換ということで円高不況、日本列島冬景色といわれる厳しい環境におかれた、医療界も12月19日、国会で老人保健法改正案成立によって80年型社会に向かって厳しい保健医療のパラダイムに組込まれ、産業界同様医療構造の転換期を向えました。

今年は、このような現実を直視し、昨年からの懸案事項であった生涯教育、西多摩地域医療のより充実を計るため、病診連携、公私役割分担、公衆衛生活動の拡充を計っていくつもりです。これらの事業を通して、前瀬戸岡執行部からの1つの課題、〔次の世代のための医師会づくり〕を目指していくつもりです。これらの事業の達成は、会員諸先生方のご協力なくしては出来ません。とくにこれからの医師会を、担う若い先生方の活躍に負う事が多いものと考えます。この若い世代の人達の声を充分反映させ、又その芽を育み、つまないようにしていきたい。医師会は会員にとって何か? また会長職は小生にとっては何か? と自らに問い、〔夫子の道は忠恕たり〕をモットーに、あやまりのない会の運営をしていきたいと考えています。諸先生方の御理解と御協力をお願い申し上げます。最後に会員諸先生方御家族の御多幸をお祈りし挨拶と致します。

## 新年にあたり

副会長 大塚 渉

昨年は、医師の生涯教育制度化の試行も、塩沢部長を始めとする学術部の先生方のお骨折により、無事終わりました。今年は、いよいよ本番です。よろしくお願い致します。

さて新年の閣議に斎藤厚相は、未知への挑戦—明るい長寿社会をめざしてとの副題を付けた白書を発表し、あと10年余で到来する21世紀を未曾有の超高齢化社会と初めて定義しています。

そして昨年末の医事新報に日大人口研究所が『人口、経済、医療モデルに基づく、長期展望フェイスⅡ』を発表しております。それによりますと、国民医療費は、1986年には、17兆3,490億だったのが、5年後には21兆4,710億、10年後の1995年には、30兆8,990億と推計されております。我々に対する締めつけも、一段と厳しくなる事は必至でしょう。

又この医療費の増大の主要因の一つである寝たきり老人と痴呆性老人の推計でも、40年後には、現在の3倍になるとの事です。当然の事ながら、老人検診も質・量共に、一層濃

密となり、我々会員の労働も益々増加の一途を辿るものと思われま

す。たしかに、或る種の予防接種を始めとして、一部の検診も、集団から個人へと、一つの流れがあるようにも思われます。しかしながら、西多摩各地の先生方のお話を伺いますと、各自治体で、色々事情が異り、都区内と同一視する訳にはいかないようです。これからも色々論議のある所でしょう。

私事で恐縮ですが、この年令になって、初

めて海外旅行なるものを致しました。………近くの南の島です。ホテルでは、やはり、さしみで辛口のぬる燗でした。寒い日本に帰って、日課のジョギングに出かけますと、お寺の山門にこうありました。

願わざるに草は生え

願わざるに花は散る

この一年何とか、その責を果したいと念じております。何卒ご指導の程よろしくお願い申し上げます。 以上

### 新年にあたり

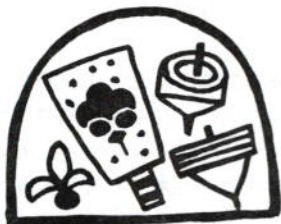
副会長 松原 貞一

新執行部が発足して初めての新春を迎え、会長補佐役の一人として、諸先生方の益々のご健勝ご活躍をお祈り致します。

昨年来、医療法・老健法の改正、生涯教育制度、ヘルス事業体制の見直しなど、我々にとっても医師会としても、考えねばならぬことが山積しています。どれひとつとっても見ても問題は複雑で、それぞれに色々な意見が出ています。例えば生涯教育の問題についても、勉強は自分でするもので強制されるべきものでないとする制度不要論から、制度が出来、機会が与えられれば雰囲気も出来、対外的メリットもあるとする賛成論まで、まさに両極端の意見があり、いずれにもそれぞれの理屈があります。

老健法が施行されてヘルス事業の実施主体が市町村ということになって以来、広域医療体制とは名ばかりで、各市町村はこと更地域

特種性を強調し、少しでも周囲と異なる事業を行なおうとする傾向が強くなっています。地域の我々も行政のこの考えに同調し特種性を誇張しようとする程、九市町村を包括する西多摩医師会という立場はうすれ、その役割も再検討される時代になりつつあるのも否めません。しかし数は力であるともいいます。B会員も含めて高々280人の集団、出来ることなら小異を捨てて一致団結、毛利兄弟の三本の矢ではないが結束が力となれば、よろず下り坂なる医業に些かの竿をさすこのも出来、ひいては地域医療向上の為にも個人として以上の貢献が出来るのではないのでしょうか。その為にもまずは、生き方、立場が違えば多種多様の意見のあることを知り、その意見に耳を傾ける心を失うことなく、会員の為の最大公的数を模索することこそ、選出された役員の責任であり義務であると思います。会員の利益の為、会長の補佐役として微力を尽すことが出来れば身に余る幸せであり、諸先輩、諸先生方に一層のご指導をお願い致す次第であります。



お知らせ	お知らせ
三月の 三月七日 午後迄 (土)	二月の 二月七日 午後迄 (土)
保険 提出 日	保険 提出 日

## 一つの青春 —近代史に生きる—

青梅市 近藤 肇

### その一 自己からの脱出

#### 1 コンプレックス

私の青春は、時には自己嫌悪、コンプレックス、いやな自己の脱出への生活が多かった。だけれども、人は、「いや素晴らしい青春ではなかったか」という。

過去は楽しいもの。そうだ、私の青春は確かに素晴らしかったと言えよう。だからその青春を語ろう。しかし、青春を語る以上、嫌な青春も、その道程として語らなければならぬ。

中学のころ。

成績は悪かった。今でいう登校拒否児のような状態もあった。

今にして思うと、母を責める気はないが、母には母性本能的な溺愛はあったが、教育的な愛はなかった。

母の溺愛を受けた私は、我がままな生徒だったから教師の覚えは悪かったんだろう。中学の1年からずうっとクラス担任だった数学の教師、顔色のすぐれない陰気な、あだ名は、上海玉子に似ているというので「シャン玉」、その「シャン玉」、何人かの生徒が宿題の答えを黒板に書いたのを見て、私を指し、「この下手な字で書いてあるのは、どうせ、近藤だろう。」

という。いくら字が下手だって人を馬鹿にしやがる。

作文の時間に教師が文章のうまい生徒のを模範として皆に読んで聞かせた。次に、極めて下手な文の例を読み始めた。

それを聞くや否や私の顔は耳まで真っ赤になってしまった。

「小学生のような幼稚な文だ」と教師は評した。言うまでもない、それが誰のかは。

「何という侮辱だ。」

「ザンバ」というあだ名の、高等師範を出たてで来た英語の教師がいた。ザンバとはその頃の外国映画の題名で、その教師は身体は

小さいが態度が荒っぽく、頭髪をボサボサにして、映画の虎みたいだったから、そういうあだ名が付けられていた。ある授業中、机の間をのそりのそり歩きながら、私の所に来ると、立ち止まって『おい、近藤、君が暗闇みから出て来ると、人はブッタまげるぞ』と来た。私は下を向いたまま、その時間中顔を上げられなかった。

「俺は、そんなに人相が悪いのかなあ」

私は、「トンビ」だとか「カラス天狗」だとかあだ名をつけられていたが、このザンバの一言は、私の自分の顔に対する劣等感に拍車をかけた。

顔に対するコンプレックスは何十年も続いていた。

最近の事、スナックなんかで、『先生、若い時は女の人に持てたんでしょね』

といわれることに出食わす。お世辞にしても、そうだったのか、しまった、もっと自信を持って良かったなと思う。

スパルタ教育で鳴る校長の成田千里先生にビンタを食らったりしても、愛情を感じこそすれ、憎しみは感じなかったが、いや味や皮肉を言われたり、憎らげに私を扱ったり、遅刻をしたからと耳を引っぱったりした先生は私にとっては恩師でない。

#### 2 社会に目が

4年の1学期の終りに、シャン玉が私を呼んだ。

『君は、今学期の成績が良くなったから、このままいけば、高等学校を受けられるが・・・』という。今で言えば、東大を受けられるというのに近い。

態度がまるで違う。ザマア見ろだ。

私の中学の名は、第一東京市立中学。

「市立一中」という言い方をしたら、校長の成田先生にどやされてしまう。第一が先なのだ。何でも第一という教育だった。

現在の東京都立九段高等学校である。

当時、第一東京市立中学では、クラスでの成績が14~15番ぐらいまでだと大体高等学校へ入れた。4年から入ると、5年で合格すると、一年浪人して入るとである。高等学校へ入った者は、少数を除き多数が東大へ行っている。

今学期の成績は、今まで50人中30番かそれ以下だったのが、それが今度は5番だというのだ。

『田舎の高等学校で、姫路か松江あたり・お城のあるところなんか行ってみたいけど・・・』医者である父は、慶応の医学部を受けたらとか言っていた。

昭和6年のその頃。

町には貧困な労働者、失業者があふれ、農村は極度の生活苦、家の為に娘が売られて行く。僅かな金で、しがらみの取れない、遊郭の女郎などへと。

日本を救わなくてはならない、自分に何が出来るだろう、と自問す。愛国団体などの講演を聴きに行ったりもした。

労働争議の頻発、市電や省線電車(国電)は止まる。

無産運動の弾圧・共産党員の検挙

血盟団など愛国団体の財界の腐敗追及、要人の暗殺を計画。

浜口雄幸総理東京駅でピストルで狙撃されて重傷。

陸軍の3月事件、10月事件、何れも軍部内のクーデター未遂事件。

9月18日柳条溝爆破による満州事変が勃発、戦時状態の始めとなる。

とあれ、私は、夏休みには大いに運動をし、級友と戸山が原へ行って野球をやっていたりして元気だった。

2学期になって、社会に目を向けるようになって、考え込むことが多くなった。

『国の将来は』から始まって、『人生とは何ぞや』『死とは何か』『この世とは一体何なのか』・・・などとなった。

昭和7年に入ったのこと。

戦火は上海に拡大し、これが上海事変。

中学の新婚早々の英語教師は、召集され、

まもなく上海の戦線で戦死。

3月、満州国建国。

血盟団の一人一殺主義のテロにより、前蔵相井上準之助氏、三井の団琢磨氏などが暗殺された。

ひとり考えても解決しない。学校は欠席し勝ちだし、受験もしなかった。

### 3 大学へ

5月15日に、有名な『5・15事件』が起きた。海軍の青年士官と陸軍の士官候補生が中心で、各地で決起した。

犬養毅首相は官邸で、青年士官に『話せば分る』と応じたが、『問答無用』とピストルで射殺された。

夏。ロスアンゼルスオリンピックで、水泳男子6種目中5種目に優勝。

宝塚や松竹の少女歌劇人気で、女学生たちは男装の麗人へあこがれ、特に水の江滝子ターキーに対して熱狂的な人気があったという時代であった。

国際的には、日本は孤立し、国際連盟が日本に満州からの撤退を要求し、ついに、翌年、日本は国際連盟を脱退するに至った。

日本の政党政治は崩れ、軍部独裁の政治へとつき進んだ。

南進論、北進論が華やかに論ぜられた。

私は心身の調子は良くなかった。頭が疲れる、目が疲れて本が読めない、運動をすると疲労が翌日に残る、足が痙攣する、不眠。元気がない。学校は休み勝ち。

今、私が診断するとすれば、思春期症候群である。

クスリなんかで治せるものではなかった。心を改造しようと禅の本を読んだりした。催眠術の勉強もした。催眠の原理は大いに共鳴するものがあつた。中村古峯氏の本を熟読した。自己催眠の訓練もした。

この時、催眠術に関心を持ったことは、のちに医者になって、現代医学による医療の限界を痛切に感じて、医学知識の応用だけでは人間を治せない、心の問題から解決指導し、また、全身的医療こそ真の医療と確信する端緒にもなったと思う。

(6)

昭和8年

3月、とにかく、慶応義塾大学医学部予科の入学試験だけを受けた。

ところが、こんな状態の私だったが、合格してしまった。



医学部卒業時

物理の問題。

『ガラス球に針の先ぐらいの細い細い穴があいている。その中に水銀を一杯つめるのはどうしたらよいか。』

まるでクイズみたいな問題。これは気体の膨張の問題である。

答は、「ガラス球を熱い湯に入れ、中の空気を暖め、水銀の中に入れる。空気が冷えて水銀が少し入る。これを繰り返せば、冷えては少し水銀がガラス球に入り、又冷えては水銀がガラス球に入る、こうしてガラス球は水銀で一杯になる。」である。

大学予科に入ったが、3年間は無為に過ぎたようなものだった。

その間、記憶の中から捨ててみると、ドイツの名画、「会議は踊る」の主題歌の「唯一度の機会」(Das gibt's nur einmal)は、ドイツ語を習い始めたクラスのもので歌わないものは無い程であったし、フランスの名画「パリ祭」の主題歌の「パリ祭」も歌われ、私は今も好きである。日劇へ行ってはニュートキーヨーでビールを飲んだものだ。

歌では、満鉄の社員から突然歌手としてデビューした東海林太郎の歌が良く歌われ、特に「赤城の子守歌」は一世を風靡した。

政治的には京大の滝川事件や美濃部達吉氏の天皇機関説問題があった。滝川事件というのは、滝川幸辰氏の著述を巡り、氏の辞職を迫る文部省と大学自治を守ろうとする京大法

どうしたの  
だろう。それ  
は、私には出  
来た問題だが、  
それが出来な  
かった受験生  
が意外に多か  
ったというこ  
とだったよう  
だ。

学部の対立であった。美濃部達吉氏の天皇機関説というのは、「天皇は機関なり」とする氏の説は国の為許せないとするもので、枢密院議員であった氏は辞職させられたという事件である。私なんか、極く普通に、どうして天皇が機関であってはいけないのか、という感じは持っていた。

歴史を辿ると、こういう事件は、軍や右翼に強引に引っぱられて行った過程の事件の一つで、あれもこれも国家の為という国家主義が国民一般の世論となり、地下活動者を除き、もともと左翼であった労働運動の指導者でも、国家社会主義者となり、すべてが天皇の名の下に、日本を戦争へと駆りたてつつある時代の流れだったのである。

#### 4 肉屋の住み込み小僧に

昭和12年、学部2年の夏。

私は、鎌倉の長谷の大仏の近くにある、『米久』(よねきゅう)という肉屋に住み込みで働きに出かけた。

仕事は、5時起床の掃除と水撒き、午前と午後の配達。材木座から由比が浜にかけて、別荘があちこちにたくさんある。当時、別荘を持つなんていう階級は相当なものである。今の時代の別荘を持つ人とは人種が違う。

『まあ、学生さん、お掛けなさいよ、どおっ これ』

配達先で、女中さんが冷蔵庫からアイスクリームを出してくれる。

店は28才の兄と25と22だかの姉妹が主人である。朝食の味噌汁の残りが昼食にでるが中身はなく汁だけ、おかずは、わずかな煮ものとたくあん。なかば飢餓状態の私には、何か食べさせてくれて、10分でも何かしゃべっていられる時が天国だ。

私は、時々樹影とか浜辺あたりで、自転車の荷台に未配達の品物を入れたまま、休息して油を売ったりする。

ある時、自転車が倒れて、荷台の中の卵が割れて黄色くぐちゃぐちゃになり、肉などの包装紙もよごれてしまった。

何とか、ほかの店で不足の卵を買い、包装紙を拭いて、別荘の台所の戸を開けて元気良

く『今日わあ』

『どうしたの、学生さん、包装紙が変ねえ、何だか・・・』

もじもじ・・・と私。

『そうなの、そんな事しなくて良かったのに。』

『あら、そう、慶応の学生さんなの。』アイスクリームとパイナップルを出してくれる。

主人たち家族が帰ってきたようである。横須賀線には2等車があり、金持ちは2等に乗る。鎌倉駅から家族とハイヤーで帰って来る姿が松の間から見えた。

店へ帰ると、主人ブリブリ、

『遅いじゃないか、由比が浜のMさんの別荘から早くって、さっきから注文があるんだ。急いで行ってくれ』

もともとが苦勞知らずの坊っちゃんのこと。7月10日から9月10日までの約束の期間をやり抜こうと、我慢に我慢を重ねての毎日だったが、人使いが荒いばかりだから毎日が楽しくない。

東京の明治屋が同じ長谷で、近くに支店を出していて、慶応の経済学部のK君は共済部の部員で、そこで働いていた。K君の店は、ほかに店員がいるし、楽しそうだったなどの、言い訳は通らない。予定の60日間は辛棒が出來ず、40日で止めてしまった。

でも、「40日もよく勤められたわねえ」と言ってくれる人はいないかしら。

日給80銭。当時の新宿～青梅間の電車賃は75銭だった。

肉屋の小僧の経験は、少しは自己脱却の試みに役立ったとは思う。

## 5 自然と人生

自己脱却の試みは続いていた。

生きていくということとは何か。宇宙は無限、無限とはどういうことか。

空の星、距離は光の速さで何万年、その先も、先の先も、その先もある。

哲学書を読んでも解決にならなかった。

恋愛小説なんて不潔だ、あんなもの。

退廃ムードの社会、ネオンの下のダンスホール、キャバレー。華やかな都会風俗の蔭に

ある矛盾

財界の腐敗を訴える右翼、ナショナリズム、そしてマルキシズム。金持ちの子女のモボ(モダンボーイの略)・モガ(モダンガールの略)たちの派手さ。東大卒業の半数は就職できずというような国や社会の経済。

松竹の小津安二郎監督の「大学は出たけれど」という映画が共感を呼んだ。

「シネマ見ましょか、お茶飲ましょか・・・ジャズで踊ってリキュールで更けて・・・」の東京行進曲。

「赤い灯 青い灯 道頓堀の 川面にあつまる 恋の灯に 何で カフェーが忘らりょか」の道頓堀行進曲。

退廃的な歌が街を風靡していた。

「酒は涙か溜息か 心のうさの捨てどころ・・・」、影を慕いての「永ろうべきか空蟬の・・・」の古賀メロディは、所詮、「この世は、酒と恋というもの」と庶民の生活を歌う。

私には、「慶応の学生は銀座」というのは当てはまらなかった。医学部の学生は大体が真面目だったから、私だけ真面目だったというのではない。その代り、六大学野球はよく見に行ったものだ。慶応は宮武、山下、水原、早稲田は三原なんかの時代だった。

文学にはほとんど興味が無かったが、徳富蘆花の本を読んだ。不朽の名作「不如帰」(ほととぎす)。不潔ではなかった。随筆の『自然と人生』という題で書かれている数々の名文に感動した。

自然と人生の一文、「此頃の富士の曙」。

「心あらん人に見せたきは此頃の富士の曙・・・」で始まる名文。何十回となく読み、暗唱した。『自然と人生』は私にとっては、清涼剤であった。

谷崎潤一郎の『文章読本』というのが出版された。文章が下手ということで定評のある私は何とか文章が書けるようにと、『文章読本』を何回も読んだ。いいことが書いてある。良い文章とは、名文を書くことではない、読み易い文章が名文だということを知った。これが、きっかけで、文章を書くのが好きになった。

私の心に変化が見られ、輝かしき青春の扉が開かれかかっていた。(続く)

## 運動のために

秋川市 井村 進一

昭和36年の頃だったと思うが、同期の医師がゴルフを始めた。初めてコースへ出て彼氏いわく、「人生観が変わった」。私は呆然として云った。「キミの人生観って随分とチャチなんだなあ」とついつい漏らした。彼氏は一瞬、不快だったが、すぐに私への憐憫の表情に変わった。

その彼から暮に電話があった。同期生のW君が万年助教授から某国立大精神科教授に内定したとのこと。「いま、ゴルフのハンディはいくつか」ときいたら「名誉10ですよ」という。「名誉」というのは、平均して10～20のハンディらしい。

当時すでに穏健するペシミストであった私は、極めてシニカルで、流行りだしたら無関心になってしまう。唯一の例外は車であった。便利なので購入した。メカニズムにはうるさかったが、機能に支障のない凸凹や汚れには鈍感で、いつもホコリまみれであった。清潔なのはエンジン・ルームだけであった。髪の毛ほどのキズがついても、眼鏡を近づけて、ワックスがけしている同輩、先輩が滑稽にみえた。

30万坪有余の散歩道つきの土地が近くにあったとしよう。そこを歩けと言われたら、考えただけでもぞっとする。野鳥や植物にもあまり興味のない私である。臥って本でも読んでいる方がましだと思う。そんな20年有余の生活で足が弱ってきた。53才を目前にひかえて私はゴルフを始めた。そして54才になった。この一年有余をふりかえて、我流にまさる上達法はないと悟った。61年8月17日の軽井沢72における105がベスト・スコアであり、教課書を読むたびに無慚なものとなった。

何故だろう。考えるまでもなく私は青木でも中島でも尾崎でもなかったのだ。それぞれのプロの打ち方は極めて個性的だ。各クラブ

の球の位置やとりわけパターの打ち方はそれぞれ違いすぎる。

教課書的にいえば、一つの打球法と逆の打球法、すなわちテークとアンチテークとにそれらしい解説が可能なのだ。そのもっともらしさは精神分析的解釈と同じだ。脳が混乱すれば運動神経も混乱する。かくして暈の上の水練となり果てる。

「我流にまさる上達法はない」と書いた。しかし打球の瞬間だけは（実は瞬間だけではダメで、そのあとの30センチ余りのフォローが重要なだと活字では書いてある）ターゲットに対し直角にクラブ・フェイスが向いていなければならない、しかもそれはフェイスのスイート・エリアに球が当らねばならない。これは公理である。アマチュアの私にとっては、この公理、原則に限りなく自らの肉体運動を近づけるような工夫をするしかない。

アウトサイドインでフェイド・ボールを、またインサイドアウトでドロウ・ボールを出そうなどと考えるのは、すでにセミ・プロ的志向である。

どのクラブで打っても120メートルしか飛ばないという器用な人がある。スクエア・フェイスでストレートに当らしく、目標方向へ飛ばすのであり、奇妙なまでに器用なのだ。120, 240, 360, 480, 600メートルのホールばかりでは勿論ない。438メートルのホールならば、フェアウェイの幅を利用して480メートルのジグザクに打てばパーである。155メートル、パー3のショート・ホールに弱い訳でもない。この器用人はクラブ1本とパターさえあればいい。シングル・プレイヤーである。彼はゴルフなんて面白くないという。銭をかせぎに出かけるのだという。いささか嫌な感じがした。ゴルフ・マシン・マンだ。商社員。



はじめの方で「30万坪有余の」土地とかいた。その散歩道つきの土地はゴルフ場にして約6キロメートルある。白いボールを打っては歩き、打っては歩きながら一喜一憂するが故に歩けるのである。運動のためにやると考える方が「ゴルフだよ。人生は」より私にはふさわしいようだ。

突然の着想で申訳ないが、税制上、ゴルフはスポーツではない。遊興なのだ。トランプ、マージャン、パチンコ、バー、キャバレー、ゴルフ等。

去年の暮近く、テレビでローザンヌ・バレエ・コンクールを観た。14才から19才までのダンサーが出場した。短足は日本人(東洋人)の特徴かと思っていたら、厚生省だか文部省だかの計測集計結果の通り今の中学三年生の平均身長が1932年生れの大人のそれを超え、下肢伸長の率が相変わらず続いている、という現状をみた。日本人が2, 3人受賞していた。その夜、おかみさんに25.5のバレエ・シューズを買ってくるように依頼したら躰蹙をかってしまった。跳躍して両足を空中で三回叩き

着地してみたかったのだ。いくらやってみても一回がせいぜいであった。いや厳密には半回である。一度両下肢を叩き合わせたら離れないのだ。

レントゲンで自分の骨をみた。骨梁やゝ粗となり、骨粗鬆症の傾向がある。靴の尖にコルクの入ったバレエ・シューズをはいて、短足まる出しのバレエは多分醜悪であろう。ドヒンシュクをかう前に、速慮した方がよさそうである。何よりも骨折は避けたいと願う。生来、私の体は柔軟性に欠けるようだ。従って、体のねじりと、そのねじり戻しでクラブを振るということが出来にくい。ならば、肋骨骨折予防のためにも、正確なショットのためにも、手打ちの方がよいと考えた。意外とターゲット方向へ行く。これが今のところ私の我流ゴルフである。スコアが良くなれば、同伴者に迷惑もかけず、自分も楽しく歩ける。スポーツであると同時に遊興でもある。楽しく回りたいものである。

(当直室で。62年1月1日)

平和な性であれば優る過去を見つめて	国防費イン1%への突破す思うだに怖ろしD	チエルフノフィリ――地球も狭きよにして	エイズへの伝来以来の国難	如何に困窮対称国策難のときなりと	医療界も税化への変化遠からんかも	激動の今年は昨 <sup>c</sup> 和 <sup>せ</sup> ごの幾多を幸先きよしと	赫々と昇る朝日の若水汲みぬ	目覚むれば東の窓は赫く映ゆ	「 <sup>も</sup> 丁 <sup>卯</sup> 元旦感想」 小泉新策
-------------------	----------------------	---------------------	--------------	------------------	------------------	---	---------------	---------------	--

## 三公立病院各科部長と医師会役員・会員との懇談会（詳報）

学術部長 塩澤永康

会報 168 号に渡辺編集委員が掲載しましたが、再度もう少し詳しく報告させていただきます。

昭和61年12月5日（金）午後7時50分より午後9時50分まで2時間 西多摩医師会館講堂でA会員19名、B会員22名、計41名の出席を得て、全員による意見の発表後（A会員1分30秒、B会員2分間）、2グループに分れ各グループの意見を踏えて別室で懇談し、夫々のグループの意見を石井先生、大塚先生に発表して頂き、最後に総まとめを行い、成功裏に終了しました。

以下各人の自己紹介と発言要旨を報告します。

西村会長（牛浜で開業）：本日の会は西多摩医師会の70有余年の歴史の中で三病院の先生方と一般会員との話し合は初めてであります。過日三病院の病院長・副院長と西多摩地域における地域医療をどうしたらよいかとの観点からどうやったらよいかと色々話し合い、私達は多少知っていますが、部長さん方は知らないのでは是非話し合って頂きたいし、又、大塚先生からも病院の部長先生方と病診連携を進めて行きたいとの意向もあって、この会がもたれたわけであります。

大塚副会長（秋川で内科を開業）：医師の生涯教育制度化について先生方をお願いやろご教授を頂きたいのです。生涯教育制度化についてはA会員の中でも正直のところ関心の薄い方も少なくありません。勤務医の先生方も薄いのではないかと推察するのでございます。本日のテーマの病診連携については寧ろ先生方に迷惑ではないかとの思いがするのでございます。〔中略（生涯教育の発端から現在までの経緯を説明）〕10月1日（水）三病院の院長・副院長との懇談会でC.C. 紹介患者のあり方、代験学習等々、Bedside trainingは現在は無理だから、出来ることからやって行きたいと思っております。

以下① 紹介 ② 生涯教育  
石井青梅現市立総合病院副院長（外科）

②Bed-side training はむずかしい。

Conference は時間がマッチしない。

Conference は紹介患者さんについて行うのがよいのではないか。

平沼阿伎留病院副院長（内科）

②病院が出来上ったらCanfarance roomが出来来る。医局ではConference をしている。

（内科・外科）

正木（阿伎留病院小児科 以下阿伎留と省略）

②duty を強くすると減って来る。医師会からテーマを貰ってどおいうふうにすれば役に立つかを考えてやるべきだ。

小児科は学校検尿。

馬詰（阿伎留・眼科）

①紹介患者一人でも多く下さい。専門医制度ができて3年になる。

②手術を見学してもらおう位。

坂元（阿伎留・内科）

②Conference は紹介患者を中心にやるとよいと思う。

松田（阿伎留・耳鼻科）

①紹介状にはくすりを具体的に書いて欲しい。

佐藤恵（阿伎留・外科）

②月に一度Conference をしているが趣味のもてる症例を選ぶのはむずかしい。

③emergency の処置とか。手術をしなくても済むようなものが増えて来た。

玉井（福生病院・泌尿器科 以下福生と省略）

①無症候性蛋白尿は泌尿器科でなく小児科・内科に送って欲しい。

鈴木（福生・産婦人科）

①斜陽で紹介して貰いたい。

青山（福生・小児科）

①紹介患者の返事は退院する時の方がよく書ける。

②Clinical Conference は具体的のテーマを出して具体的に話す。適当な頻度で廻して貰いたい。

島田 (福生・内科)

①紹介は時間内にして欲しい。何時頃病院に行くかを教えて欲しい。待ちぼうけになることもある。

諸角 (福生・外科)

①紹介は電話をして貰いたい。返事が出来る。

② Conference は毎週木曜日 P.m 6:00 病院の中に自由に入り、C. T. ope とか見れる。

阻 (福生・内科)

Over work になっている。病院の実状を知って欲しい。委員会を作ってお互に相談したらどうか。

柴崎 (福生・整形外科)

老人病院・精神病院の人が多く大腿骨頸部骨折の人が多い。

高野 (青梅市立総合病院・産婦人科 以下青梅と省略)

②実際問題として無理

柏木 (青梅・眼科)

①受付時間ギリギリに来ないように。(よく診たいから。)

宮崎 (青梅・脳神経外科)

① Primary care が大切。Case を通しこうすべきであるとの説明があった。

山田 (青梅・外科)

①紹介する時は電話をして欲しい。

②生涯教育はテーマを決める。症例を通してやる。

③科別のものをやってもよいのではないか。

④イレウスの時に透視を行なって送って来ては欲しくない。

宇田 (青梅・外科)

①外科のものか内科のものかを鑑別して送って来て欲しい。例えば、老人の機能性イレウス、ベットの関係で内科にも転科出来ず困まる。

②病棟に入って来て説明を求められれば、歓迎するが、先生との約束を取ってから来て欲しい。患者さんとはそうしている。

林 (青梅・小児科)

①何時でも時間はかまわない。

②要望があれば申し出て欲しい、一緒に勉強して行きたい。

桜井 (青梅・内科)

② C. P. C を担当している第4週目の月曜日 P.m. 6:30、希望があれば言って来て欲しい。あとは坂本先生に

坂本 (青梅・内科)

①「かゝりつけに電話をしても駄目だから。」と一次救急の患者さんが来る。

③専門分野があるので表を作りたい。

②新しいことを勉強するのはあまり意味がない。考えることが大切である。特に症例についての検討会。

これでBグループは終り。次にAグループ……

木村 (五日市・内科)

①時間外にはどうしたらよいか。

②教えて貰うことは先生の負担になるのではないか。お互にメリットになるように具体化して行きたい。

宮川 (福生・外科)

②医師会に三大病院の Conference の日時を教えて貰いたい。時間の点が一番問題で例えば土曜日の午後

湯川 (日の出町・内外科)

①どんな患者さんでも引受けてくれて有難い。

②時間が問題 Week day の P.m. 7:30

症例、考える、テーマを決めたもの

林 (福生・内科)

② Bedside training は無理、送った患者さんを見に行った時、受け入れてくれる気持があって欲しい。

栗原 (五日市・整形外科)

②休を取って病院に出かけて行く。

鈴木修 (五日市・内科)

②時間の問題がネック、昼の時間も出来るのではないか。お互に連絡し合って行なえばよい。

東 (羽村・内科)

①診断、治療方針がつかない時、要望するのは治療をどうすればよいか、どう考えればよいか。

②時間の問題 1~2 α/月 お互にゆづり合うしかない。

堤 (羽村・小外科内科)

②病院 Conference に積極的に参加するし

かない。

小沢（青梅長瀬・内科）

②一番よい時間帯を教えて貰いたい。

川辺（奥多摩・外科内科）

①紹介した患者さんの返却に問題があるのではないか、仲々返えしてくれない。

②専門の知識と第一線の接点。

吉野（青梅・内科）

②時間の問題はこちらがゆずるしかない。こちらが休日か半休の時に行なうしかない。

渡辺（福生・内・外科）

東京方向に患者さんの足が向っているのではないか。

鈴木穂（青梅・婦人科）

②病診連携とはどういうことかを知りたくて来た。

野本（青梅・内科）

①病院の専門がわかるとよい。人がよく変わるので情報を知らせて欲しい。

③患者さんが行った時はこちらにそのことを教えて欲しい。

横田（羽村・内科・循環）

①うまくいっている。

②Bedside training は不可能

③医師会と病院とがよく連絡を取って、病院の情報を知らせて欲しい。病院の情報を知りたい。

塩沢（羽村・外・皮・内科）

②第二回都地区医師会の学術担当理事連絡会・報告の要旨を配布し都医師会の病診連携の方針を説明した。

②Catchball systemとは投げたボールを投げ返して欲しい。患者さんの主導権をあくまでも持って、精査等をお願いした患者さんを返して欲しいsystemを作りたい。

## ま と め

Bグループ（石井）

1. 病院に来る場合、電話で打合せて、予約を取ってから来て欲しい。
2. Conference は本拠地でやりたい。勤務は昔と違って大変忙しい。
3. 紹介患者さんを返すのはなかなか難しい。

Aグループ（大塚）

1. 紹介状を持って電話をしましょう。
2. 外来の専門の先生の診察日を教えて貰いたい。
3. 紹介患者さんのコントロールがついたら、返して欲しい。
4. Clinical Conferenceについては各病院に行っておこないたい。予定を教えて欲しい。

西村会長

1. Primary care についての大切さを強調された。（青梅・宮崎）、無症候性蛋白尿について泌尿器科でなくむしろ小児科に送って欲しい。（福生・玉井）のご意見については留意し努力して行きたい。
2. 大変有意義な会が持て、ありがとうございました。

司会（塩澤）

拙い司会でしかも準備期間も少なく突然の指名でまごついたこと、存じます。ご協力を頂き無事に終り、病診連携に光明が見えて参りました。

ありがとうございました。

この様な会を年に一度は行ないたいと思いますが、次回は十分な準備期間を取りたいと存じます。

これで会は全部終了させていただきます。

以上の通りですが、生涯教育の趣旨を積極的に知って頂き、その目玉である病診連携についての基幹三病院の部長先生方の声や出席したA会員の声を踏えて、今後どのようにしたら稔りある病診連携が出て、日進月歩の医療に遅れないように、又、地域住民によりよく貢献できるように考えて行きたいと思っています。どうか目的達成のためにお知恵をお借し下さることを切望致します。

どしどしご投稿下さるようお願いいたします。



## 診療報酬明細書返戻状況

10月分

返 戻 理 由	医 科 ( 乙 表 ) 件 数			
	青 梅	福 生	秋 川	西多摩
1 保険者番号、記号○番号、公費負担者番号、市町村番号、受給者番号の不備又は保険者番号と記号の不一致	23	4	10	22
2 旧証の記号○番号				1
3 患者名、生年又は生年月のもれ	4		1	
4 傷病名のもれ	1	2		
5 診療月分、診療開始日、診療実日数、転帰のもれ	3	1		
6 診察料(初診、再診、往診又は時間外等の表示)のもれ	2			1
7 診療月と診療開始日及び初診料の不一致	15	2	4	
8 診療実日数と診察回数又は処方回数の不一致	26	3	2	2
9 投薬○注射(薬名、規格単位、用量、回数)の不備	3	1	1	1
10 処置○手術○検査○X線(薬名、回数、内訳)の不備	1			
11 入院料の不備				
12 点数欄記入もれ又は点数算出根拠不明	1			13
13 契約外(国保、国鉄、公費等)				
14 症状詳記(診療内容及び方針の説明等付せん参照)	1	5		2
15 医療機関(薬局)の申し出によるもの	1			
16 その他	2			4
計	83	18	18	46

## 医師会日誌

医療機関数 156 病院 24  
 診療所 132  
 会員数 283 A会員 146  
 B " 137

## 会議

1月13日 総務会  
 14日 学術部委員会  
 20日 理事会

## 講演会・その他

1月9日 整備会  
 14日 法律相談  
 17日 新年会  
 20日 生保指導  
 21日 税務講習会

## 役員出張

1月7日 都医公衆衛生委員会  
 9日 国保審査委員懇談会  
 12日 都医生涯教育担当理事連絡会  
 16日 都医会長会  
 " 三多摩地区会長会  
 19日 都医社保・国保担当理事連絡会  
 29日 春松会

## 会員通知

○大島住民の帰島に伴う保険診療の取り扱いについて  
 ○62年新年賀詞交換会案内  
 ○老健法改正に伴う取り扱いについて  
 ○NHK放送番組特集「地球大紀行」と「地区大紀行展」周知ポスター及び招待券の送付について  
 ○老人医療制度の一部改正について  
 ○准看護婦卒後教育講習会開催について

- 生活保護法による看護科の改定及び医療扶助運営要領・医療扶助にかかわる東京都特別援護事業補助要綱の一部改正について
- 青梅市立総合病院宿日直表
- 会報
- 税務講習会案内

## 新年賀詞交歓会スナップ - 1 -

去る17日大寒を前にしての暖かい一夜、昭和62年度の新年賀詞交歓会が青梅福祉センターで行われました。西村会長先生のスピーチから始まり、都議水村、丸山両氏、三市長を代表して青梅の山崎氏、町村会は栗原氏とマイクが移りまして、瀬戸岡進先生の力強い『乾杯』の音頭で祝宴も一段とムード・アップ。レベルの高い独唱の部にはいり、内山、木野村、秋山、近藤の各先生方の美声にしばし酔いしました。途中新年会の梯子でと石川要三議員の元気な声も入ったりしてなかなか盛会でした。 リポート 道又





梅園病院院長松本博文  
 先生七十二才 去る  
 一月十二日御逝去さ  
 れました。謹んでお  
 悔み申し上げます。

訃報

川辺愛子様七十三才  
 川辺隆道先生御母堂  
 去る一月二日御逝去  
 されました。謹んで  
 お悔み申し上げます。

訃報

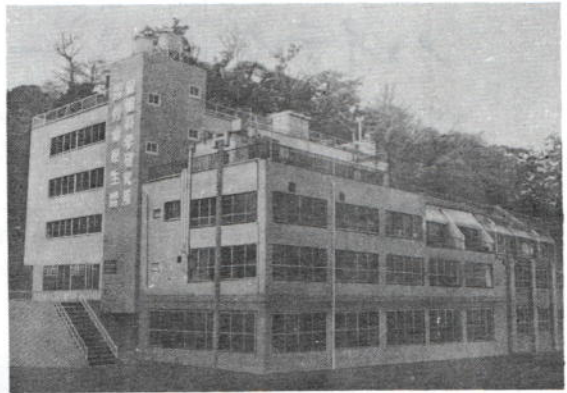
あ と が き

明けましておめでとう御座居ます。新年号らしく近藤肇先生にお願いして富士の雪景色をカラーで表紙にさせて頂きました。今迄は結果的に月遅れだった会報を繰り上げ何しろ31日到着でもいいから先生方に新年号をと慌ただしくしましたので、レイアウト、校正などに至らぬ点多々あるかと思いますが、いい加減損得もなし五十年式に生きてきたアノ男じゃ仕方ないと広い度量でご勘弁下さい。さて売上税などといったものが話題になって居りますが、真剣な時代の読み方をしないと自己破滅に陥るかも？個人的には馬券戦線では金杯的中し、何冊か読んで気になった中央競馬愛好家で岩手生れ常盤新平氏の直木賞受賞を喜んでいるのだが。

埋草野郎      みちまた

## 臨床検査センターの雄 保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町106  
 電話 045 (333) 1661 (大代表)  
 八王子市子安町3-17  
 電話 0426 (26) 2203・2204

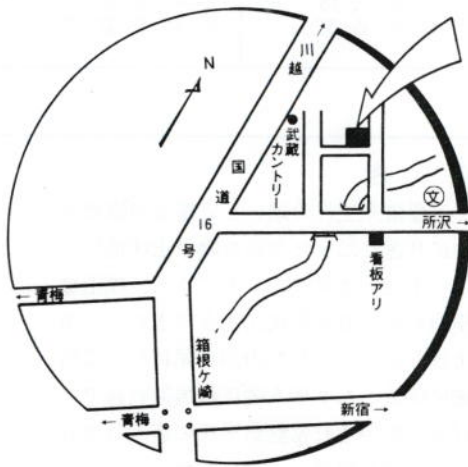


- 総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
- 完全オンラインシステム化を実現致しました。(データー通信システム)
- 関係医療機関 約 3,500ヶ所
- 広範囲な検査内容
  - 内分沁学検査●免疫学検査●ウイルス検査●生化学検査●血清学検査●血液学検査
  - 病理組織検査●細胞診検査●重金属検査●水質検査

！都川県の御得意先を毎日定期的集配致します。御一報を御待ち致しています。

# 期待と信頼にこたえて15年!!

検査のことなら**武蔵臨床**へ 電話一本緊急検査に応じます  
学校、会社の集検にも御利用下さい



埼玉県登録衛生検査所

## 武蔵臨床検査所

所長 杉田 富徳

埼玉県入間市上藤沢 3 3 9 ~ 1

TEL 0429 (64) 2621(代)

## ハイテクノロジー検査領域へ!

本社総合ラボは、日々進展変化する臨床検査システムに対応すべく、関東医学研究所の総力を投入し、最先端検査機器を駆使した正確な情報の抽出を目指しています。検体のお預りからデータのご報告まで、確実に迅速にお応えします。

**事業内容** 一般検査、血液学的検査、血清学的検査、臨床化学検査、微生物学的検査、ラジオ・アイソトープ検査、病理学的検査、集団検診などの臨床検査



**関東医学研究所**

本社総合研究所 埼玉県入間市上藤沢3-39-1 Phone: (0485)42-3171(大代)

第2検査所 新武市志岡町281-58 Phone: (0429)23-7272(代)

Kanto Biomedical  
Laboratory